

令和7年度 鯉淵学園農業栄養専門学校自己評価（必須項目）

学科長、副学科長、センター長、副センター長、課長による

評価基準を A,B,C,D,E として、A（100%） B（80～99%） C（60～79%） D（40～59%） E（39%以下）として達成度を評価

*数値化が困難な内容は、内容に照らした実績でおおよその評価

大項目	小項目	評価の基準	評価
1 教育理念・目的・目標	1 教育理念、目的及び目標の設定等	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、要請する人材像を明確にしている	A
2 教育課程、教育の実施学修成果	1 教育課程の編成と授業科目	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置している	B
	2 教育の実施	授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習または実技など授業形態で教育が実施され、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っている	B
		企業等と連携した実習、演習等の授業を行っている。また、実習、演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定している（職業実践専門課程）	D
	3 単位・卒業認定	卒業認定方針を学科・コースごとに定め、その目標が達成できている。	B
	4 学習成果目標の達成状況	学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む）についての目標を定め、その目標が達成できている	B
		学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できている	B
3 学生の受け入れ、学生支援	1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定している	B
		学生の受け入れは、入学定員に基づき適正に行っている（修学支援新制度機関要件の確認）	B
	2 学生生活に関する支援	カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営している	B

		留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っている	B
		学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用している	C
		学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用している	A
4 教育実施 組織・教員	1 教員の配置、募集、採用	教育課程を実施するのに必要な資格・要件を備えた教員を確保するために基準等を整備し、適正に運用している	B
		教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握している。また、教員の専門性、教授力を把握、評価している	B
	2 教員の組織編制等	学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規定等で定めている	C
	3 教員の資質向上	学校の教育活動の改善、工夫への取組や教員の研究活動、自己啓発支援を行っている	C
		職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っている	D
		教員の授業及び指導力等を習得・向上するための研修を企業と連携して組織的に行っている	C
5 教育環境	1 教育環境の整備	教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えている	C
	2 安全対策、防災組織	学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っている	B
6 教育活動の基盤と改善・向上の取組	1 中期事業計画と財務基盤	学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立している	E
	2 学校運営	学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われている（企画・運営の責任体制を含む）	B
	3 学校評価の実施と改善活動	学校評価を実施し結果及び改善状況について農情報を公表している	A
		食業実践専門課程において、教育課程編成委員会を年2回以上開催している	B
	4 社会からの理解と情報の公表	教育活動、学習成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表している	B

評価の概要（A, D, E とした概要）

*A,D などの場合の概要

大項目 番号	小項目 番号	評価の概要
1 教育理念・目的・目標	1 教育理念、目的及び目標の設定等 A	・理念や目的・目標は従来通り明確である。 ・栄養士の養成という明確な目的をもって教育にあたった。また、栄養士でありかつ食農・食育を十分に理解し、指導できる人材の養成という明確な目的をもっている。
2 教育課程、教育の実施学修成果	2 教育の実施 B	・講義、演習、実験、実習の形態で教育が実施され、適切な教材、例えば教員の手作り教材が用いられている。それらの成績評価基準に基づいて成績評価を行っている ・給食センター・病院・福祉施設・保育園などの多くの事業所（企業など）と連携し、校外実習を実施した。
	D	・企業説明会、受託試験などは行ってきたが、講義・実習の一部を依頼するなど企業連携の在り方を見直す必要がある。
	4 学習成果目標の達成状況 B	・何処を達成とするかにもよるが、資格に興味を示さない学生や意見や主張が纏まらない学生への更なるアプローチが必要である。 ・アグリビジネス科全員に農業技術検定 3 級を取得させるようにしている。また、大型特殊等の各種免許を取得させている。畜産コースでは家畜人工授精師・家畜受精卵移植技術士の講習会を実施し、資格を取らせている。
3 学生の受け入れ、学生支援	1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理 B	・受け入れ基準選考方法は明確だが、学生募集、定員増加に向けた取り組みを推進することが必須である。

3 学生の受け入れ、学生支援	2 学生生活に関する支援 B B	・月 1 回の外部カウンセラーに依頼し、カウンセリングを行っている。回数を増やすほどの需要は認められないので引き続き現状で行いたい。 ・専門職員を配置した支援室は無い。
	A	・メンタルヘルス不調の把握や、同不調からフィジカル不調も併発し、欠席数が増加する者への対応が後手になりがちであった。「指導」する側の細かな聞き取りをし難い今日、自己申告待ちとなってしまうこともあるため難しい面がある。
		・科内にキャリア教育チーム、教育・研究チームを組織し、学生指導の年間計画に則り就職活動の支援に取り組んだ。
4 教育実施組織・教員	1 教員の配置、募集、採用 B	・偏りがちに見てとれる ・専門性はある運営側も把握できているが、十分な評価ができていないと思われる。
	2 教員の組織編制等 C	・教員及び職員の業務分掌に偏りがあり、責任体制の確立がなされておらず、それを改善できていない。
	3 教員の資質向上 C D C	・企業連携にもさらに注力必要である。 ・企業連携を部署単位で行っており、他部署の理解を得にくいところが見られる。 ・学生や職員に係る企業連携はできているとは言えないと思う。
5 教育環境	1 教育環境の整備 C	・既存するもので工夫をしながら実施しているが改善必要である。 ・古くても良いが更新は不可欠である。
	2 安全対策、防災組織 B	・ヘルメットの着用など推進や対策は以前より増加した。 ・防災面は検討し、早い段階で実施に向ける必要がある。 ・防災計画は策定されているが、学校安全計画の策定が必要である。

6 教育活動の基盤と改善・向上の取組	1 中期事業計画と財務基盤 E	・更なる改善に向け、様々な提案や事業を実施している。 ・補助金等の活用を積極的にする。 ・施設・機器の更新、賃金の上昇に見合う財政と言いい難い。 ・鯉淵学園全体の予算執行状況を共有化できていないので、途中経過の情報共有化をしていく必要がある。 ・財務基盤が薄く、強化を図りたい。 ・財務基盤が十分とは言えない。
	2 学校運営 B	・組織にあてた人材が適しているかを検討していく。 ・組織体制の整備途中であり、現状の組織体制では適切な運営とは言い難い状況がある。
	3 学校評価の実施と改善活動 B	・様々な点で不具合が多いと感じている必要な業務の整理を行い、組織だてをする必要がある。 ・教育課程編成委員会は開催できなかった学科があった。 ・学校評価の結果・改善策等について、公式 HP 上に適切に公開した。 ・教育課程編成委員会を年 2 回開催し、教育内容の向上に努めた。
	4 社会からの理解と情報の公表 B	・B 評価としたが更に進める必要がある。 ・SNS（ホームページ、Instagram）等の情報通信を通して積極的に情報発信を行っている。 ・学生の必要とする情報量が少ないと思われる。

令和 7 年度 重点目標に係る評価

学科内における協議の上評価。関係箇所のみ実施。

重点目標Ⅰ【質の高い人材の確保と教育内容の充実】について

1 評価項目別の評価

達成目標（分野）	評価	評価の概要
入学選抜方法の改善と実施（各学科）	B	一部入試の改善を行ったことは評価するが、今後ブラッシュアップをしつつ、数年の成果による評価も必要である。
きめ細やかな実習指導（農技）	B	B 評価としたが、個人的には物足りなさを感じる例）専門用語のかみ砕き 等
カリキュラム改定（栄養）	B	科内の改定はほぼ済んだが、令和 7 年度内の申請に至っていない事から。
プロジェクト学習の積極的推進（アグリ）	A	プロジェクト学習が例年になく積極的に行われ、関東ブロックプロジェクト発表会で 3 名が発表することができた。
SNS の積極的活用（全）	C	積極的活用は進んでいるが、その効果調査や発信内容の質、マンネリ回避などのチェック体制の不備、対応要員の負担など、改善要因が多い。

重点目標Ⅱ【職員の指導力の強化】について

1 評価項目別の評価

達成目標（分野）	評価	評価の概要
職員研修の機会増進（全体）	C	専門的な研修及び勉強会は以前より増加している特に職員研修の機会増進は行われなかった。研修についての情報共有が進み、オンラインを中心とした専門研修への参加は増加したものの、研修が職場・従業員の義務であることへの理解に乏しい面があり、意欲の醸成が必要。
学生主体の演習形式の授業（アグリ）	A	一方通行形式の講義ばかりでなく、課題を与え、それに対して情報を調査収集し発表する授業形態がみられてきた。
指導体制・スキルの充実（栄養）	B	教職員の退職・採用、教職員室化等により、一定程度は指導体制を強化できたが、発表や研修など内部・対外活動の強化により、さらなる充実を図れる余地がある。

重点目標Ⅲ【進路指導の充実】

1 評価項目別の評価

達成目標（分野）	評価	評価の概要
進路決定率・就職率の向上（各学科）	A	現時点で1名を除いて希望者全員が就職内定している（7/8） 手厚い就職支援による高い決定率を維持しているが、進路を定めきれない学生への対応検討が必要。
就農率の向上（アグリ）	A	農業後継者3名および農業関連生産法人4名である。
栄養士就職率の向上（栄養）	A	毎年、就職希望者の栄養士就職率は高く、向上できる余地は少ない。

重点目標Ⅳ【教育理念の伝統化】

1 評価項目別の評価

達成目標（分野）	評価	評価の概要
特別講義の開設（経営）	C	昨年度後期より学園経営の理念として、価値観教育、人格教育のための講座を設け、本年度は、前期15回、後期4回の計19回実施した。 まだ学生の理念に対する理解不足もあるので、講座内容の精査等が必要である。
全職員研修会(経営)	C	学生だけではなく、学園の職員に対する研修会を開催した。学園経営の理念に当たる部分の理解を促進するために、理事長を中心とした経営側の考え方について学ぶ機会を設けた。始まったばかりなので、今後どのように計画し進めるかといった課題の解決に当たりたい。